



2011 年 2 月 4 日

BMW グループと PSA プジョー・シトロエンが合併会社を設立してハイブリッド技術提携を強化へ

- 急成長を遂げるハイブリッド車部品を開発・生産
- 大きなスケール・メリットの実現をねらう

ミュンヘン発/パリ発：

BMW グループと PSA プジョー・シトロエンは、両社の提携を新たな段階へと進めるべく、合併会社を設立する合意を結んだ。新会社の社名は「BMW プジョー・シトロエン・エレクトリフィケーション社」である。出資比率は双方 50%ずつとなる。今回の合意は 2 月 1 日にフィリップ・ヴァラン PSA プジョー・シトロエン会長と BMW AG 取締役会会長のノルベルト・ライトホーファーとの間で取り交わされた。なお、両社はすでに 2010 年 10 月に、既存の提携対象分野をハイブリッド・システムへ拡大する覚書 (MoU) を結んでいる。

新しい合併会社となる BMW プジョー・シトロエン・エレクトリフィケーション社は、バッテリー・パック、電気モーター、ジェネレーター、パワー・エレクトロニクス、充電器などのハイブリッド部品の開発や生産を行なうとともに、ハイブリッド・システムのソフトウェア開発も手がけ、研究開発、生産、部品調達の共同化により、両社は大きなスケール・メリットの実現を目指す。

今回の提携拡大の最大の目的は、両社の自動車ラインアップへの電気駆動システム導入促進に必要な標準ハイブリッド部品の開発である。これらの部品について、欧州版オープン・プラットフォームを構築し、ハイブリッド化分野における欧州業界の構造化を支援する狙いがある。そのため新合併会社では、開発案件のアウトソーシングにより、サプライヤーの統合を図るほか、親会社 2 社以外へのハイブリッド部品の販売も視野に入れる。

操業開始は、独禁当局の承認をへて 2011 年第 2 四半期の見込みで、開発および生産したハイブリッド部品が BMW、PSA プジョー・シトロエンの車両に搭載されるのは、2014 年以降となる。

新会社の経営陣および従業員は BMW および PSA プジョー・シトロエン両社の人員を移籍する他、外部からも採用する。主要管理職ポストは両社平等に分け合い、最高経営責任者には現 BMW グループ購買戦略担当のヴォルフガング・グリッヒ、社長には現在 PSA プジョー・シトロエン顧客満足および品質計画担当ディレクターを務めるジャン・ルフルールが就任の予定である。

ライトホーファーは「この合併会社設立によって、両社は自動車の電化の分野で大きなスケール・メリットを実現することができます。また、持続可能なモビリティ実現へ向けた大きな一歩となります。」と述べた。また、フィリップ・ヴァランは次のように話している。「PSA プジョー・シトロエンは、この合併会社の運営を通じて持てるノウハウをさらに発展、拡大し、ハイブリッ

ドによる自動車革新をリードする欧州企業を作り上げます。」

BMW グループと PSA プジョー・シトロエンはこれまで数年にわたり、エンジン分野で提携を進めて成功を収めており、2006 年～2010 年のエンジン共同生産台数は 180 万台以上に達している。また、2010 年 2 月には、EU 6 排出ガス基準に適合する次世代の共同設計 4 気筒ガソリン・エンジンの開発にも合意している。共同設計エンジンは、現在すでに、MINI をはじめ、プジョーやシトロエンの多くのモデルに採用されている。

BMW グループについて:

BMW グループは、BMW、MINI、ロールス・ロイスの 3 つのプレミアム・ブランドを擁する、自動車およびモーターサイクルのトップ・メーカーの一つであり、世界 13 カ国に 24 の製造工場を有し、140 カ国以上に販売網を構築しているグローバルな企業である。

2009 年度における自動車総販売台数は 129 万台、モーターサイクルは 8 万 7,000 台で、売上高は 506 億 8,000 万ユーロ(1 ユーロ 135 円換算で約 6 兆 8,418 億円)を計上した。また、2009 年 12 月末時点における従業員数は約 9 万 6,000 名である。

BMW グループは常に長期的な視野と責任ある行動を企業の指針とすることで成功をおさめており、その結果、すべてのバリュー・チェーンにおける環境的および社会的持続性、責任のある製品作り、さらには資源保護に対する明確なコミットメントを企業戦略の不可分な要素として確立している。このような努力が実を結び、BMW グループはダウ・ジョーンズ・サステナビリティ・インデックスの自動車部門において、6 年連続でトップに選定されている。